慶應義塾大学ビジネス・スクール

富士通館林工場におけるFA化と労働

ＦＡ化と労務管理の課題

植　松　知　子

富士通館林工場はOA機器専用の総合工場として昨年4月より本格的稼動が始まっているが，当工場は増大する需要及び高性能化，高品質化への要求に対応するため，ファクトリーオートメーション（FA）が大幅に取り入れられている。1年余経た現在，そのFA化に対し，従業員の約95％が賛成している（現状のままFA化を進行させて良い－48％，仕事の面白みを残したままFA化を進めた方が良い－47％）。現状ではFA化を大部分の従業員が受け入れているが，このようにスムーズにスタートし得た原因，及び今後問題となり得る点を，技能工の「多能工化」の面から検討したい。又，職長クラスについてその職務内容の変化と数年後には生じるであろう中高年の技術革新への適応についての2点から検討したい。

館林工場の建設の背景には富士通の，IC，コンピューター，通信の三部門を柱とする事業体制から，OA機器を加えた四部門を柱とする事業体制に移行する企業全体の体質変化がある。従来の汎用コンピューター中心からワープロ，小型コンピューター等OA機器を含めた幅広い商品戦略に，短期間で移行しているのは，他の大手コンピューターメーカーも同様であり，OA機器分野では，高い成長が見込まれると共に品質，価格面での厳しい競争がおこっている。

当工場でのFA化とは，コンピューターネットワークによる入庫から，加工，組立，検査，出庫に至るまでの生産管理，工程制御，及び無人搬送車，ロボット，自動機等の大幅な導入の二つの面が統合され導入されていることである。人間の役割としてはまず組立工程，又は高度な検査部門が挙げられる。製造の全過程の内，「作る」部分は3％で，残り95－97％は検査等に費やされる。「作る」部分を担当するのが人間であり，残りの部分を機械化によって生産性を上げることが全体の生産性を上げることに直結するというのが，当工場の基本コンセプトであるとの説明だった。

1）　多能工化への努力

①　職務分担の範囲について

自動機械が導入された場合，技能工の職務は，機械の監視だけの単調化と，段取・調整，プログラミング，トラブル予知，診断等も含めた複合化，高度化の二つの方向が考えられる。当